

日本は木の文化を持っているけど、林業で働く人が減っている？

日本の国土の約

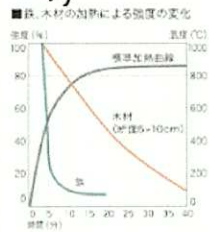
7割は森林！

日本の森林率は先進国の中でも2位です。森林が多いとCO2を植物が吸ってくれたり、動物のすみかが増えたりします。

木は鉄より強く木にも顔がある！

木は鉄やプラスチックに比べて温もりがあり、鉄のよりに火に近づけても曲がらず火に強いです。また、木はとても長持ちします。同じ木でも重さや香りや節が多かったり、少なかったりします。また、成長が早かったり遅かったりさまざまです。

そして木は
光合成なので
ねじれていたり
します。



違法伐採の木は日本で検査されている

人口増加や非伝統的な焼き農業などで森林破壊が進んでいます。違法伐採をすると動物のすみかがなくなったり、地球温暖化が進行します。また、違法伐採の木材を買った人は違法伐採の手伝いをしていただけになります。ですが、日本の法律で検査されたものにはJASマークがついていて私達が違法木材を買っていることはほとんどないそうです。

日本人は昔から木を使い続けてきた

日本人は3000年以上前から木を使っていました。そのうち木を建築用や田んぼを作るために切り開き、森林乱伐が進み、676年には当時の天皇が初めて森林伐採禁止令を出しました。第二次世界大戦が始まると戦いの武器のために大量の木材が必要になり、全国各地の山がハゲ山になりました。そして大水害が各地で発生しました。戦後は大量の木が必要だったため成長が早く使いやすいスギやヒノキの植林が進みました。

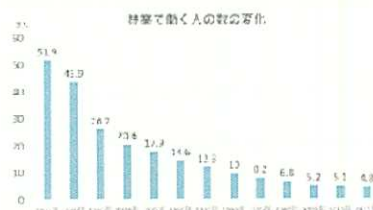
日本は木の文化を持っている

日本には607年に建てられた法隆寺という世界最古の木造建築があります。外国の木造建築と比べても日本は高い技術を持っています。割り箸も日本で作られ、「事を始める」という意味があり、祝い事で使われます。

林業で働く人が減っている？

林業で働く人は、日本全体の労働者のうち0.9%しかいません。林業は雨の時に休みになる会社もあり、死亡やけがなどの災害は減っていますが、発生率は他の産業の10倍です。

戦後に植えられたスギやヒノキは収穫期を迎えています。育ち過ぎると山からおろしたり、加工するのが難しく費用もかかります。林業で働く人が減ると森を手入れしたり、木を植える人がいなくなり森が荒れたり、木を使うことができなくなります。



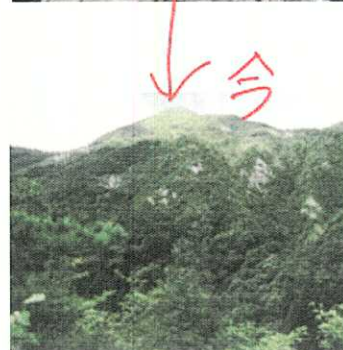
日本の木の文化を守る

日本ではウッドショックと呼ばれる状態になっています。ロシアとウクライナの戦争やコロナウイルスで住宅を買う人が増え、日本への輸入や加工が遅れたり、木材の価格が高くなっています。人工林を植えて森が荒れないように手入れをして日本の木を使ったら良いと思います。そして余ってしまった木も使うと無駄にならないで木を大切に使うことができます。

今は木の良さを知る人が少ない!!

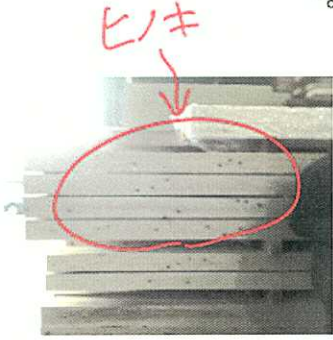
大森持ちの日本がハゲ山に!?

木は昔から使われてきました。縄文時代(約三〇〇〇年以上前)日本は、約七割が森という大森もちです。例えば、お城を建てるにも使われ、さまざまな物に使われてきました。けれども、木を使い過ぎてしまい六七六年には、初めての森林伐採禁止令が出てしまいました。明治時代に荒れていた森はなんとか木を復活させたものの第二次世界大戦が始まり、木が必要になり森がハゲ山になってしまいました。ですが、植林をしたことにより、また木が復活しました。



木の良さや特徴

慈照寺、銀閣寺とも言われるこの建物は一四八二年に建てられた物ですが、一度も変えられた事がありません。そして、木は火に弱いと思う人が多いと思いますが、木は火に強く、腐りません。そのため、何年も使用しておく事ができます。木は暖かく、何年も使ううちに木の色味ができます。また、木のスプーンなどは木の温かみを感じたり、熱いものを食べるとき、鉄のスプーンよりも木のスプーンの方が熱くなく、臭いも木のスプーンにヒノキなどは臭いが強くともいいです。



国産材と外国材の違いは!?

外国材は値段が安く買う人も増えています。外国材はへいたんな地で育っていることが多く、素直で加工しやすいのですが、国産材は山や坂などの傾斜が急でけわしい山で育つため木に曲がりなどのくせがあり、加工技術を要します。また、外国材は大径木から何本もの柱材を木取りするため辺材が多く、乾燥しやすいのですが、国産材は基本的に柱林業と呼ばれ、1本の木の直径から1本の柱を採れるように育てています。



日本の林業は悩みが多い!

日本の木材自給率は約四〇パーセントです。また、林業は危険な仕事のため職人が減っており、木を切ったり、森の手入れをする人が少なくなっているため、山が荒れていたりします。また、多くの人に木の良さを伝える人がいなくなり、木が日本の文化ではなくなってしまうと、木を外国材の輸入に頼りました。けれども、ウッドショックで、輸入木材の価格が急激に値上がりしました。そして、コロナで輸入ができなくなった、仕事ができる人ができなくなりました。また、ロシアとウクライナの戦争のせいで、ウクライナを通るみちが使えなかったり、もの取り合いが起きたりしました。国で決められた量よりも多く木を取ったり、許可されていない場所で木を取ったりする事を違法伐採といえます。なので、安い木を求めすぎると、知らないうちに環境破壊の手伝いをしてしまったり、真面目に木を売っている人の木が売れなくなります。ですが、今はJAS(認定されたマーク)がついたものを使っています。



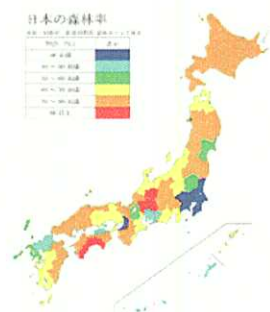
木は守るべき!?! 使うべき!?!

私は、少し使うのがいいと思います。なぜなら、使いすぎてしまうとまたハゲ山になってしまい、木がなくなる可能性があります。けれども、守るだけだと、木の良さや特徴を知る人が少なくなる、林業の仕事につきたいと思う人が少なくなるかもしれないです。また、木は使いやすいけれども、木の魅力がわからなくなり、木を買う人も少なくなり、違法伐採は安いので、その木を買ってしまう事があるかも知れません。そして、木の魅力がわからない人が多いのであれば、日常生活に使う日用品などを木に変えたりすればいいと思います。なので、私は少し使うのがいいと思いました。

木は一定の齢を越すと どんどん使って行くべき

日本の7割が森林！！

日本で昔から使われている木。実は日本の約7割が森林なのです！！
上の図を見てもわかるように各都道府県でもほとんどがオレングシや黄色に塗られています。
日本ときの歴史は、3000年以上前の縄文時代からです。基本的には、火を燃やすための木、森で取れるキノコやどんぐりを食料にする。木を栽培し、弓や先の尖らせた棒を作るなどが代表的です。他にも様々な方法で使われていたとされます。



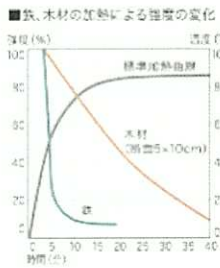
その後、戦後木が足りなくなり一時期植林ブームがありました。みんな植林して、たくさん木が増え、今の日本があります。



木の良いところは

安心感

私の思う木のいいところは安心感です。
いろんな安心感が木にはあります。例えば、赤ちゃんのおもちゃ。赤ちゃんのおもちゃって大体木のものが多いです。やっぱり、口に入れても大丈夫のものだったり、温かみがあってよく使われているんだと思います。また、木には節と言いい木の中でもとと折れやすい部分があります。これは木の枝が生えている部分の軸みがないところで、フシの部分は他の部分と違って折れやすいです。そのため、林業で働いている人はその部分を家具などに使わなかったりして、みんなに安心して使ってもらえるようにしているのです！



では、木を使うと私たちの生活にどのようなメリットがあるのでしょうか。
皆さんよく知っているのは、二酸化炭素(CO2)を素の心に変えてくれるというのはいまみんな知ることです。他にも様々なメリットがあります。例えば、キノコなどの食べ物を作る。大陸棚などで魚の成長を支える。水を綺麗にしてくれる。動物の棲家になるなどが挙げられます。
私が思う一番のメリットは、木材資源です。日本の伝統的な木材を使った建物。木材は鉄や銅などと違い錆びることがありません。また、どの資源よりも長く持つので、木を使って立てられている城は数多くあります。
そのほかにも木の数は無限大です！そのため自分の好みの木を見つけたら、その場所、場面にあった木を見つけたら、様々な使い方ができるのでも、わざわざ銅や鉄のように一色にならなくても、わざわざ色を塗らなくても、自分好みの木を使うことができます。
なので、森が多いことの一番のメリットは、木材資源が手に入ることです。

森が多いことって何の メリットになるの？

高度経済成長、 ウッドショックで 産業の危機！！

高度経済成長(1955年から1973年まで)の期間産業はどうなったのか。
高度経済成長で、産業をする人が減り、ほとんどの人が商業に移った時期です。
高度経済成長で産業で働いていた人が約40%減り、商業で働いている人が約30%増えたと言われています。

また、製造業でも約10%の人が変わってと言われています。高度経済成長でたくさんの方が産業から商業や製造業に移りました。そして、産業で働く人がどんどん減る中、世界で輸入木材価格が急激に値上がりしました。今では、よくウッドショックと呼ばれるものです。日本でも、木があまり手に入りなくなり、外国の木を使いたいけど、高くて変えず、日本の木を使う人が増え、日本の木も手に入りにくい状況になりました。また、その中でも2022年には円安になり、もっと木が手に入りにくくなったと考えます。

ほかにも高度経済成長でたくさんの方が商業や製造業に移ったことで困ったことがあります。それは、気を切る年を過ぎてしまうということです。木を切るのはせめて50年まで、と言われていいます。でも、高度経済成長で、たくさんの方が、商業などに移ったことで、人手が足りなくなり、それまでたくさん植えてきた木を切れなくなり、新しく植えた木がどんどん弱ってしまうことが起きたのです。今もその状況が続き、多くの木が50年過ぎても切られていないのです。
私なりの意見ですが、木は50年過ぎていくとそれまでしんばいしなくても良かったことを心配していかなくてはならなくなるのです。ただし、今多くの人は成人したら商業に入ることが当たり前になっていきます。林業に限らず、他の産業も人手が足りなくなっています。少しでも多くの人が産業に興味を持ったり、面白そうって思ってもらえるような取り組みをする人が増えると、沢山の人が産業にも入ってくれると思います。だから、今の課題はひとまず、産業と商業や製造業の仕事を両立させる必要があると考えました。

日本の木って これからどうすれば良いの？

私は、今使える分は使っていくべきだと考えます。その理由は大きく3つに分けたので説明していきます。まず、日本の文化を守るために使っていくべきだと思えました。日本は古くから多くの建築を木で作ってきました。木は頑丈で強く、デメリットはそう多くないと思います。日本の文化を守るためには多くの木を使い、木を使った建築をする。それだけでも少しづつ守られていくと思います。今私たちは、まだまだ昔の人から伝わってきた伝統技術をやっている人がいます。ただし、今の現状では昔から伝わってきた伝統を継いでいく人がいないことが問題です。だからこそ、木を使い日本の伝統を守っていくべきだと考えました。
2つ目は、林業で働いている人についてです。今、上で説明したように、高度経済成長を期にたくさんの方が商業へ移っています。そのため、今行っている間伐などの森の手入れをする人が減り、日本には災害など増えていきます。もちろん、林業は難しく、危ない仕事だと十分把握していますが、日本の技術を高くして林業の出来る機械を作るなどもっと工夫する必要があります。もちろん、どんな仕事も欠かせない仕事です。でも、多くの人が産業の良さを知り、産業に少しでも興味を持つだけでも、これからの産業は少しは安定していくと思います。
3つ目は、木の性質についてです。木の性質を考えた時、多くの木は二酸化炭素を吸収して、酸素へと変えてくれます。ただし、ある一定の量を超えると二酸化炭素も排出していく性質があります。ですが、今人手が足りず多くの木が切らなくてはならない年齢を超えたまま放置されている状況です。このままだと、今努力していることが一気に無駄になる可能性があります。
だから、木を使っていくべきです。
だからといって、もちろん全部使うとなくなってしまう。だから、国が一定の齢を決めてそれを超えたら使うとか、今年使う分の上限を決めるとあんまりつかえなあんまり使えないから、ぎゅくに最低限これだけはつかましようってきめてたくさんつかまきめてたくさんつかつかってもらう使ってもらおうようにするとかたくさんふうしていきべきです！！

日本は大森持ち～けれどもその裏で大変な事になっている？～

日本は大森持ち！
けれどもハゲ山時代も！

日本の森林面積は約2500万ヘクタールです。森林の国土面積は67%です。世界中では国土面積が1位になっています!!ですが、縄文時代からずっと使っていたため戦国時代あたりにはハゲ山になってしまっています。(家を作ったり、武器を作るため、火を燃やすため) また、第一次世界大戦、第二次世界大戦などの戦時中、国内戦争の後は、木材が足りなくなりました。このままでは世界は大きく成長している時期、日本は世界の文明において行かれます。そこで植林をはじめました。木は植えてすぐに育つわけではないので、成果が始めるのは、5、60年先になってしまいます。けれども木がなくなるよりはいいのでたくさん植林したそうです。植林をしたことで、現在は木が昔ほど減ることはなくなりました!それでは現在の、木の状況、林業の状況はどうなっているのでしょうか?また、昔に比べて植林の量木を切っている量は増えているか、今の私たちにできることはあるのかを考えていきたいと思います。



植林



林業はこれからどうなってしまう?

現在の林業は様々な問題を抱えています。例に挙げるとしたら...

- 一 高度経済成長で林業で働く人が減っている(植林、木を伐採する人が減ってしまう。)
- 二 コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ戦争などで木材の価格が上がっている。ウッドショックになっている。木の値段が上がるのに「家を建てたい」という人が増えている
- 三 日本の木を使わなくなってきている。外国の輸入に頼っている。



この手助けをしたことになり日本が取りまわっているから、違法伐採で切られた木を

伐採で切られた木を買ってしまうと違法な手助けをしたことになり日本が取りまわっているから、違法伐採で切られた木を

四 世界各地で違法伐採が起きているから、正しく貿易をしている人が不利になる、違法伐採で切られた木を買ってしまうと違法な手助けをしたことになり日本が取りまわっているから、違法伐採で切られた木を

五 木の良さを知る人が減ってきていると、木を購入する人が

六 木の手入れをする人がいないから台風、災害が来た時根の弱い木が一気に倒れてしま

七 ロシアの軍事侵攻によって木を日本に届ける最短ルートが使えない!

安すぎる木材などは買わないようにする!



昔から木を使っているそのわけは?

まず、木の種類と特徴についてです。一般的には、木は茶色のイメージですが、白や赤茶色など様々な色があります。そこに加えて、太さ種類(何の種から育ったか)などがあります。種類だけで考えると30種類くらいですが、特徴も合わせると、無限大に種類はあるそうです!また、木は折れやすいイメージを持っている人が多いと思いますが、それは木の場所によって違います。節がある所は折れやすく、節のない所は思いっきり体重をかけるなどしないと折れないそうです。次は、木があるところのようないいことがあるかということ。まず大きいのは空気を綺麗にしてくれること、これはCO2を木が吸収してくれるからです。次は動物のすみかになることです。例えば土が栄養のあるものになること、他にも木材が採取できること、きのこ、炭が取れることなどいいことはたくさんあります。最後に木のそのものの良さです。木は鉄、プラスチックに比べると温もりがあり、柔らかく、使っているときに『ちようどいい』と感じることが多いです。この大きく分けて3つのことから昔から木を使っていると考えられます。

木でできている建物いつにできたの?

木でできている建物を紹介します!!
金閣寺↓建設されてから630年。一度再建された。
清水寺↓建設されておおよそ1200年。これらの建物は木でできています。木は建物にするにも長持ちすることから適しています!!
木は数十年もつではなく、数100年、数1000年もつということがわかります。これはお寺や、神社のようになたくなさんが訪れる場所だけじゃなく普通の家なども長持ちします。木は燃えやすいイメージがありますが、木も燃えますが、鉄も実は燃えやすいんです!火を周りにつけられるとぐにやりと曲がってしまうんです。なのでそれと考えると木は火の面では少し鉄よりは安心できます。

森林の未来はどうなるの?

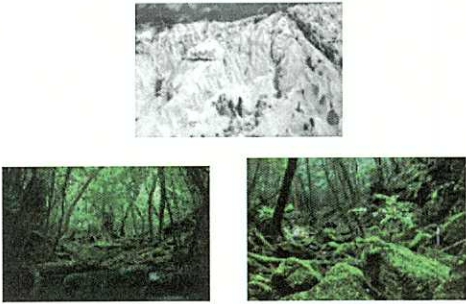
林業は様々な問題を抱えています。それとは反対に、第二次世界大戦で使えなくなった分植林をたくさんしてくれています。今は昔植えた木を使えばいいのですが、50年、60年先はどうなるのでしょうか?

植林の量が減り木が足りなくなる時代が訪れるかもしれません。働く人がいなくなり、木の良さを知る人がいなくなるとどんどんウッドショック(木が足りなくなること)になっていくと思えます。それを防ぐには、戦争の怖さを伝えるように木の良さを伝えたり、なるべく違法伐採で切られたとわかる木は買わないなど今できることをしていくことが大切なのです。ですが、私達が工場見学に行かせてもらった桧野商さんでは、切った木は捨てないようにならなくていいです。このように取り組みが広がっていくと少し、未来の林業に希望が見えます。なので私たちにできることをしていくことが大切なのです

1、日本の林業の裏を調査！

2、日本と森林の歴史

2000年以上前から、火を燃やすのに木を切ったり、栽培したり木をたくさん使っていました。それからどんどん技術が進み、お寺や田んぼを作る為に、森林乱伐をしていました。その上工業に使う燃料を使う為に木を伐採し、たたら場という今でいう製鉄工業でたくさん木を使っていました。なんと一つのたたら場で使う木はドイツのニーランドに個分ぐらい使っていました。だけどどんどん人口が増えるばかりで初めて植林が始まりました。しかし、森林乱伐は止まらず、本州、四国、九州、北海道産の南部の木は当時の技術で取れる所な大半は無くなってしまったそうです。明治時代では過去最多で荒れ果ててしまったのでたくさん森や林を作り始めました。しかし第二次世界大戦が始まって道具を作る為、鉄を燃やす為に大量の木材が必要になり全国の山がハゲ山になってしまいました。そして終戦後、今まで森が水を貯めていたのが水が木を伐採してしまったので町、村まで流れてしまい、今までなかったような大きな水害が起り初めてしまいました。そしてとうとう政府は戦争で無くなった物を作る為に植林を始めました。そのため注文が多かったので値段が上がり当時は植林ブームになりました。なので現在の森を作る事ができたのです。



3、日本の木の魅力



日本の森林率は、67%です。日本の国土の約1割が森林です。なんと世界の森林率は先進国で何と2位です。なぜ森がある方が良いかというと、木材資源が手に入れたり、キノコがたくさん出たり、木炭も手に入る事ができます。それから動物のすみかがあるので動物をたくさん手に入れられ、空気を綺麗になり、綺麗で美味しい水をたくさん手に入れる事ができるなど良い事がたくさんあります。



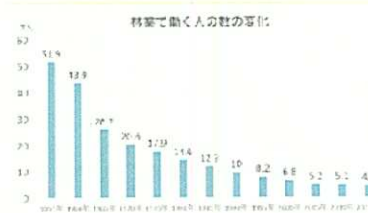
3、日本の木の魅力

今から木について考えようと思います。鉄は火がつくとすぐ形が変形してしまいます。ですが木は、火に強く変形するもの、じわじわと曲がっていくという感じがあります。他にも木は3、4年水に濡らしても腐らないです。証拠に500年前に作られた慈照寺はまだ一度も建て替えられる事なく今も残っています。



5、林業が抱える問題

日本の林業は、たくさん抱えている問題があります。例えば、
 ・使える木があるのに木を切る人がいない
 ・森林の手入れをしていないので森が荒れている
 ・自給率が低い。木材を輸入に頼るしかなくなっている。↓国産材の需要が高まらない、国産材の値段が高い
 ・国産材の良さを知らない人があまりいない
 ↓日本の木材建築の伝統を受け継ぐ人が減っている
 ・世界の木を使う事で森林破壊が進んでいる
 ・違法な伐採によって、日本の木材が売れないなどの問題があります。そして最初に言ったように林業で働く人が少なくなってきました。1955年は約51万人がいたのですが、2015年には約5万程度しかなくなりました。



6、日本の森林の未来

私は木は使えるものを使い、切っちゃいけないものは使わないべきだと思います。今は50年たった木がたくさんあって使い時です。だけど今の世界中(ブラジル、中国、アメリカなど)のように木を切りすぎると、それはそれで動物の住みかが無くなったり、雨がたたまなくなると水害が起ったりします。なので木は切った方がいい物は切った方がいい方だと思います。例えば、今私達が住んでいる日本では森林率が67%です。国のほとんどが森で囲まれている、自然豊かな国です。もし日本の木が昔のように全ての山がハゲ山になってしまったら、木を高い外国材を買わないといけなくなるかもしれません。そのために私達は、木を大切にしたい、日本の木を買い植林することが大切だと思います。また今は木を切る人が大幅に減少していますが、鋸を使って木を切る事ができると思います。例えば畑、田んぼなど農業は鋸で耕す(比事)が進められています。そうすると人の手ではできない事ができるようになり、安全性が求められます。

